



# 地域医療連携室通信

第4号

2014年1月



.....目 次.....

- P 1 表紙
- P 2 年頭のご挨拶
- P 3 講演会・勉強会報告
- P 4～P 5  
北彩都病院リハビリテーション科  
の紹介
- P 6 催し物

○ 基本理念

「患者とともに歩む医療を実践する。」  
「最良の医療を提供する。」

○ 基本方針

1. 患者さんの権利を尊重します。
2. 医療の質的向上に努め、信頼される病院を目指します。
3. 安全で安心して治療と療養が出来るように努めます。
4. 専門病院として、医療の発展を通して地域に貢献します。



## 「年頭のご挨拶」

医療法人仁友会北彩都病院  
理事長 石田裕則

明けましておめでとうございます。

今年の年始は、旭川市内で多少の雪は降ったものの昨年のような大雪に見舞われることもなく、穏やかに新しい年を迎えることができました。また、年末年始の診療につきましても大過なく安全に運営することができました。これもひとえに皆様の当法人へのご理解とご協力の賜物であると深く感謝申し上げます。

さて、今年は午年にあたりますが、「ご」とも読む午は、原義は杵（きね）の形の呪具を表す象形文字であり、防ぎ守る、逆らう、背く、たがうなど、抵抗的な姿勢で何かに対峙するという意味を含んでいるそうです。そもそも午という字の「㇗」の部分は、地表を表しており、その下の「十」の横棒は陽気で、縦棒の陰気が下から陽気を突き上げ、まさに地表に出ようとしているところとされています。そこから、旧来の代表勢力に逆らって、対抗勢力が上に出ようとしているという意味で、「午は忤（さからう）なり」と解されています。これに十干の甲が組み合わさって甲午となると、甲が殻を破って頭を少し出したことを表す象形文字であるところから、旧体制が崩れて革新の動きが始まる年とされるようです。あるいは、曆学的には対抗勢力をどう処理するかによって運命が一変する年とされています。となると、甲午の今年はさしずめ、「鼻息の荒い暴れ馬をいかにうまく乗りこなすかによって、のちの人生がまるで変わってくる年」といえるかもしれません。この「暴れ馬」が何を意味するかは人それぞれですが、医療業界にとっては、2014年度から導入される病床機能情報の報告制度や診療報酬改定であると捉えることができます。昨今の医療費は抑制傾向にあり、どの医療機関においても依然として厳しい状況にあるのは皆様ご存じの通りですが、当法人といたしましては、いかなる状況下においても医療の質を落とすことのないように、理念であります「最良の医療を提供する」を実践していくよう気を引き締めてしっかりと対応していきたいと考えております。

また、午年は当法人においても関連の強い年であると感じております。というのも、創始者である先代の理事長が午年生まれであり、存命であれば84歳を迎えていたところですし、北彩都病院の前身である石田医院を設立したのは昭和42年のことですが、その前の年が午年にあたり、腎臓疾患及び泌尿器科疾患の治療と慢性腎不全の救命・克服のために専門医院を開業しようと決断・準備を行った年であり、それが当法人の礎となっています。

今年は職員ひとりひとりが初心にかえり、当院に入職してきた時の志しを思い起こすとともに、新しい目標に向かって挑戦する年にしたいと考えておりますので、「原点回帰」をスローガンと致しました。

今後も地域の医療機関・福祉施設の皆様との連携を強化し、患者さんにとってより良い医療を提供できるよう努めて参りますので、何卒ご協力くださいますようお願い申し上げます。

# 講演会・勉強会報告

第26回 医療法人仁友会 北彩都病院

## 市民講演会

去る2013年10月27日(日) 10:00~12:00

当病院6階ホールにおいて開催されました。

内容 ① 今からでもおそくない!

② 糖尿病の治療と食事

糖尿病ってどんな病気!

～食生活でできること～

旭川医科大学 内科学講座

病態代謝内科学分野

藤田 征弘 先生

株式会社 モロオ 栄養士

松井 えり奈先生



## 第3回 慢性腎臓病患者についての勉強会

対象：旭川市内・近郊の介護福祉施設のスタッフの皆様

去る2013年11月27日(水) 18:00~19:30 当院6階ホールにおいて開催されました。

内容 ① 血液透析・腹膜透析・ハイブリッド療法について

北彩都病院 副院長 平山 智也 先生

② 腹膜透析患者を受け入れて

グループハウス 静療館 施設長 齋藤 秀彰 先生

③ 腹膜透析システム デモンストレーション

46施設108名の参加をいただき、盛況の内に終了いたしました。



## 北彩都病院リハビリテーション科の紹介

理学療法士 加藤 早紀

北彩都病院リハビリテーション科は、北彩都病院として駅横に移転した時に開設された部門であり、今年で8年目を迎えます。現在スタッフは理学療法士3名、言語聴覚士1名、リハビリテーション室助手1名で構成されており、在宅復帰やADL向上を目指して入院患者・外来患者へリハビリテーションを実施しております。



入院リハビリテーション対象の疾患は、主に内科疾患による廃用症候群、脳血管疾患、神経内科疾患、骨折・腰痛などの整形疾患、慢性閉塞性動脈疾患などがあげられます。また、脳血管障害や大腿骨頸部骨折の地域連携パスにおける連携先病院として登録されているため、当院に転院後も円滑なリハビリテーションを進めております。

外来リハビリテーションは当院での血液・腹膜透析を受けている患者を中心として行われており、日常生活動作に支障をきたす筋力・体力低下のある患者を対象としております。透析前後にリハビリ室で軽い運動を実施するかたや、非透析日に通院するかたなど、ご自身に合ったペースで実施しております。

昨年4月より、当院に言語聴覚室が開設されました。入院患者への提供となりますが、脳卒中による言語障害・摂食嚥下障害に対して評価、言語理解・表出訓練、構音嚥下訓練、口腔ケアの指導、適切な食形態の選択が可能となり、リハビリテーション分野をより大きく提供できるようになりました。



さらに今年4月より、訪問リハビリテーションがスタートします。当院の理学療法士1名が午後からご自宅に伺い、生活リハビリテーションの訓練・指導を行います。具体的な内容は、寝たきりなどにより関節が固まってしまうことを予防するための関節運動や、手指・足腰などの筋力低下を予防するための筋力強化運動、起居動作・歩行などの日常の動作訓練を実施するほか、自宅でできる自主トレーニング方法や家族へも介護・介助方法の指導・助言を行うなど相談援助も行います。

リハビリテーション科は、入院生活から在宅生活復帰までを円滑にすすめ、個々のQOL向上をサポートできるよう取り組んでおります。病棟・在宅支援のスタッフと協力しながら、よりよい医療を提供していきたいと思っております。

## 催し物

ウィーン国立音大生  
による演奏会  
2013年10月2日



## クリスマス会



健康生きがいくアドバイザーの皆さん  
によるアコーディオン演奏



発行 (医) 仁友会 北彩都病院  
地域医療連携室内  
広報誌「地域医療連携室通信」編集事務局

〒070-0030 旭川市宮下通9丁目4153番1.2  
電話 0166-26-6411 (代)  
FAX 0166-26-6417 (直通)  
お気軽にお問い合わせください